



「想像を超える」 福間中学校

「郷育カレッジ公開講座」の様子です。地域のかたと中学生がトーク・フォークダンスで本気で語り合いました。

G Tを招いた公開授業
1年生は教科、2・3年生は総合学習の公開授業を行いました。教職員が「生徒の最大限の成長を支える新しい授業の可能性へ挑戦しよう」と確認し、授業の構想を練り、G T(ゲストティーチャー)を地域の中から掘り起こし、授業に臨みました。どの授業も地域のかたや専門家のかたがG Tとして教壇に立ち、授業者自身もワクワクして当日を迎える面白い授業となりました。日頃の授業ではなかなかできない内容のものや、より専門的な内容のものもあり、生徒たちは興味をもって授業に参加していました。

パネラーと参加者が一緒に考えた全体会

全体会は、パネラーと参加者が一緒になって話し合えるパイロット・ファームという形式で開催しました。会場の参加者全員でコミュニティ・スクールについて考えたいという思いからです。福間中学校では、これまでの子どもたちの想像を超えようと、さまざまな取り組みを行ってきました。今回の全体会では「郷育カレッジとの共



コミュニティ・スクール 研究発表会を開催しました

昨年11月17日に福間中学校・福間小学校・福間小学校の3校で、コミュニティ・スクール研究発表会を開催しました。少しでも多くの地域のかたや保護者に子どもたちの成長や先生たちの情熱を感じていただくために、土曜日に開催しました。

その結果、広く市内外から3校合計1100人余りの参加者がありました。

今回の研究発表会では、どの会場においても、授業参観の後、保護者や教職員、地域のかたなどそれぞれの立場から、子どものよりよい育ちのために何を大切にすべきか、どのようなことができるのかを語り合う時間を設け、貴重な意見をいただくことができました。

「ザ・柔道インコミュニティ・スクール」の様子です。地域の柔道の専門家と高校生から固め技を学びました。



働とスタードーム製作」「多文化交流における外国人G Tの活用」「福間海岸清掃ボランティア」「オーダブル弁当」「トーク・フォークダンス」の5本の事例発表が行われました。

参加者から寄せられた意見

【保護者】

コミュニティ・スクールの取り組みについて子どもに聞いてみた。子どもは「めんどくさい」と笑顔で言っていた。「めんどくさい」ことを楽しんでもやれる大人になってくれる

ことを願っている。

【障がい者施設勤務者】

公開授業の「ことばでダンスを踊ろう」に参加しました。私は日頃から障がいがある人と接しています。中学生は障がいのある人と接する機会が少なく、接しても怖いと思います。しかし、今日の授業では中学生と障がいのある人が積極的に触れ合い、交流しました。このような機会がまたあれば、お互いの壁は意外と低いものだと思えます。またこのような機会があれば参加したいです。

【全体会(パイロット・ファーム)の様子です。参加者がコミュニティ・スクールについて、語り合いました。





「地道につみあげる」 福間小学校

低学年では問題を解いた子が手を挙げると、赤ペン先生がそばに来て丸をつけてくれます。



「つながりが人を育てる」 福間南小学校

南小校区の一員として上西郷川を愛し、「日本一遊べる郷川」にするためにできることを考えました。



「つながり」赤ペン先生と協力した授業
もう一つの柱として「赤ペ

「つみあげ」の授業
研究発表会当日、本校が平成12年から長年指導方法を研究している算数の授業を公開しました。
具体的には、前の時間の振り返りをした後、学習問題に出合わせ、友だちと問題解決の方法や考えを交流させる一連の指導を全学年でそろえていることを、子どもたちの姿、授業の姿として見ていただきました。もちろん、机の上のノートや教科書の位置、ノートの取り方なども1年生から6年生まで統一しています。これが、福間スタイルです。

教育の「なかみ」づくり
コミュニティ・スクール福間南が進めてきた取り組みの柱の一つに、教育の「なかみ」づくりがあります。すなわち、学校、家庭、地域、それぞれの立場から知恵と力を出し合い進めてきた「地域を活かす、地域を学ぶ授業づくり」がこれにあたります。発表会当日は、この「地域を活かし、地域を学ぶ授業」を全ての学級で公開しました。子どもたちが地域の良さに気づき、地域を大事にしたいという願いを高めていく姿や、地域のかたとコミュニケーションをとる楽しさを味わっている姿をご覧いただくことができました。
教育の「しくみ」づくり
もう一つの柱が、教育の「しくみ」づくりです。学校運営協議会を中核としながら、4プロジェクト（まもり・まなび・こころ・からだ）による「学校・家庭・地域の共働事業づくり」がこれにあたります。このことについては、全体会においてプロモーションDVDを使って紹介していきました。各プロジェクトの組織・体制目的、また、共働事業の内容（まもり・校区交通安全教室・

ン先生」を活用した授業を公開しました。本年度より学校支援ボランティア、通称「赤ペン先生」を募集し、算数の問題の丸つけをお願いしています。担任はその間つまづきのある子どもに寄り添って指導することができます。
子どもたちはノートやプリントを持って赤ペン先生の前へ並び、名前を言い、丸をつけてもらうと「ありがとうございました」とお礼を言います。赤ペン先生が最もやりがいを感じるのがこの瞬間です。多くの子どもたちが「また赤ペン先生にみてほしい」と願っています。
当日、多くの赤ペン先生に見守られ、支えられながら学習を展開していく様子を見ていただきました。



老人ホームの職員から子どもたちが工夫した交流グッズに、アドバイスをもらいました。

「つながり」地域の人も一緒に学ぶ授業
さらに、地域の人もこのことを学習対象とした授業も公開しました。3年生は豆腐づくりを体験する中で、地域の豆腐店のおいしい豆腐を知り、その秘密を調べ始めます。店のかたの豆腐づくりにかける思いや願いを知り、この豆腐が私たちの暮らしを支えていることをつかんでいくのです。5年生は老人ホームに入所している高齢者との交流を公開しました。交流の間には、サポートの仕方を体験学習を通して学んだり、施設の職員から話を聞いたりしました。どんな接し方や遊びをすれば喜んでくれるだろうと子どもたちは真剣に学び、考え、何度も交流しました。

校区防災訓練、まなび・セカンドスクール、こころ・南っ子まつり、からだ・新体力テストサポート・運動会コミュニティ種目）を分かりやすく伝えることができました。
知恵を出し合う分科会
分科会は、グループワークという参加型の手法を取り入れて実施をしました。地域を活かした授業づくり分科会では「保護者、地域の立場から授業へのアイデア」を、また、地域・家庭・学校の連携と共働づくり分科会では「こんな共働事業が面白いそう、出来そうだ、やってみよう」をテーマに、地域住民、保護者、教育関係者のかたがたにそれぞれの立場からさまざまな考えを出し合っていたいただきました。コミュニティ・スクール福間南の教育活動をもっと良くしていくための知恵をたくさんいただくことができ、充実した分科会となりました。この分科会でいただいたアイデアを「地域を活かす、地域を学ぶ授業づくり」や「共働事業づくり」に生かしていきたいながら、今後のコミュニティ・スクール福間南の教育活動の充実を図っていききたいと思います。



「地域・家庭・学校の連携と共働づくり分科会」の様子です。たくさんのアイデアをありがとうございました。



全体会で使ったDVDの一コマです。教育の「なかみ」、そして「しくみ」づくりを伝えることができました。